



# Be fearless ~伝統と共に煌めく未来へ~

変化できる、成長できる人になろう。

人はみんな発展途上人。  
 自分を育てるのは自分だけです。  
 様々な人に指導もしてもらっていますが、それを身に付けるのは自分です。  
 自分が自分を見捨てたら、ダメです。  
 見捨てるとは、「どうせ自分は」とか「これぐらいええやん」「誰にも迷惑かけてないやん」と言うように、自暴自棄、ひとりよがり、身勝手な考えや思い、そしてそれに基づく行為です。その本質は、他者から自分を切り離れた傲慢さであり、幼稚さです。  
 自分の心を大切に育てましょう。

自分の欠点  
 他人の欠点は誰にも見える  
 しかし  
 自分の欠点が見える人は少ない  
 自分の欠点が見えるだけでなく  
 それに挑み  
 改めていける人となると  
 さらに少ない

東井義雄

自分をつくるのは、自分です。他人ではありません。

薬師寺 大谷哲斐 氏の言葉  
 『人生はいつだって自問自答』から

- |                                     |                                      |                                    |                                       |
|-------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| ① 愚かな自分<br>気付いても<br>これでいいやと<br>思ってる | ② まあいいや<br>もういいや<br>どうでもいいやで<br>今の自分 | ③ またあとで<br>またあした<br>つもりつもり<br>今の自分 | ④ 自分が自分に<br>嘘をつき<br>自分が自分を<br>小さくしている |
| ⑤ どんな<br>自分<br>育てて<br>ますか           | ⑥ 自分<br>自分<br>自分<br>だよ               | ⑦ すべて<br>自分が<br>蒔いた<br>たね          | ⑧ 未来は<br>自分の<br>中にある                  |
| ⑨ 自分の<br>できる<br>ところから               | ⑩ 努力しているか<br>してないか<br>自分が一番<br>知っている | ⑪ 自業自得<br>すべては<br>自分に<br>跳ね返る      | ⑫ 大切なのは<br>あなたの<br>やる気                |

※順番、組合せは校長による

## 自己啓発が大事。ナポレオン・ヒルの「成功哲学」

### 『信念の力』

ナポレオン・ヒル

もしあなたが負けると考えるなら、あなたは負ける。  
もしあなたが駄目だと考えるなら、あなたは駄目になる。  
もしあなたが勝ちたいと思う心の片隅で無理だと考えるなら  
あなたは絶対に勝てない。  
もしあなたが失敗すると考えるなら、あなたは失敗する。  
世の中を見てみよ。  
最後に成功を願った人が成功しているではないか。  
全て『人の心』が決めるのだ。  
もしあなたが勝てる则认为るならあなたは勝つ。  
『向上したい』『自信を持ちたい』と、  
もしあなたがそう願うのなら あなたはその通りの人になる。  
さあ、再出発だ。  
強い人が勝てるとは限らない。  
又、すばらしい人が勝つとも限らない。  
『私はできる』 そう考える人が結局は勝つのだ。

今の学年も、もう少しで終わりです。

満足のいく1年でしたか。何か一生懸命頑張りましたか。

全ては「等価交換」、頑張った分だけしか真の喜びは手にできません。

愉快で、おもしろい、おかしい、楽しいことはいろいろあったことでしょう。

何かから、誰かから与えられたものでなく、自らが関わり、行動しての喜びが大事です。

夢や目標、志をもって、自分を大切に、その実現に向けて努力していきましょう。

真の喜びはそこに潜在しています。

### 心を育み、脳を活性化する読書

今年の箱根駅伝は、青山学院大学が3年連続9度目の総合優勝を果たしました。まさに快挙、前人未踏の記録です。原監督は、指導方針を社会人になっても役立つ能力を、陸上という競技、そして箱根駅伝というコンテンツを通して、伸ばしていくと述べておられますが、社会で通用する人間性が大事で、何にでも通用するということでしょう。



『あと少し、もう少し』 瀬尾まいこ 著 新潮文庫

一人で完走するマラソンと違い、何人もの走者がタスキを繋いでいく駅伝には、走者毎のドラマがあり感動も大きいです。舞台は中学校で、名部監督が辞め、美術教師が新たな監督となり、駅伝大会を目指すことになった陸上部の物語です。メンバーが足りず寄せ集めでチームを編成、練習、本番と様々な思いが語られ勝負の行方と並行して面白さが加速します。